

社会保障委員会 NEWS

発行：社保委員会事務局

■社保協キャラバンで自治体要請～医療と福祉の充実を求める行動～

2月7日、8日に塩釜、七ヶ浜、利府、松島、大郷の各自治体を回り要請行動を行う県社保協、塩釜社保協合同の自治体キャラバンへ参加しました。坂総合病院からは社保委員、クリ診サ課、医療相談室の各職員と友の会、労組が参加しました。要請項目は国民健康保険、介護保険、後期高齢者医療制度、子ども医療助成制度、障害者などの13項目について要請、懇談を行いました。

<塩釜で2年間水道が止められていた事例>

塩釜市国保の資格証、短期証の発行は、他の自治体と異なり一定の基準のもとに機械的に発行している印象を受けました。短期証の留め置きは、受け取りの際に納税相談を行い世帯状況を把握するための対応で、短期証の郵送は行ってない、という回答でした。短期保険証の留め置きには、相談待ちという言葉に置き換わり現在267件の無保険家庭を生み出しています。(それでも言い分は震災の影響にて昨年度よりは1割少ないと...) 要請の中では、11月に生活と健康を守る会(生健会)に持ち込まれた相談事例がだされ、4人の子どもを持つ母子家庭で2年間水道が止められていた事例が報告されました。短期証の留め置きや民生委員、水道局、市の職員の横のつながりの薄さなどが生健会・虎川会長より訴えられました。自治体当局の顔の見えない対応、当事者と向き合っていない体制がそこにはあるのだと思いました。



<七ヶ浜での1ヶ月短期証への抗議>

七ヶ浜町は前回のキャラバン時、国保短期証を発行していない自治体でしたが、震災後は当院窓口にて確認されただけでも20件、そのうち半分がわずか1ヶ月の期間しかない短期保険証でした。1ヶ月の短期証では長期がかかる疾患は対応できません。なぜ1ヶ月という短期証が発行されるのか？発行基準はどういったものなのか？1ヶ月の方は毎月役場へ取りに来なければならないのか？留め置きの件数はあるのか？などの問いに、町として滞納者に行っていく方針だ、として明確な回答は得られませんでした。

<3/29定例の気になる患者訪問>

社保委員会では、3月の第5木曜日である29日の学習時間に定例の気になる患者訪問を行います。半年以上通院中断になっている方、七ヶ浜町の短期証の世帯、未収金が続いている世帯などを訪問し、中断している状況や生活での相談事、無料低額診療制度の紹介などを行います。

■仮設健康相談会も順次開催中！

仮設集会所での健康相談会も引き続き開催しています。1月26日は多賀城・城南で富山医師・看護師2名で8名参加、2月2日は塩釜・伊保石で渡辺瑞先生・看護師・検査・つばさ薬剤師で7名の参加、9日は七ヶ浜・スポーツ広場で看護師3名・検査・放射線で15名の参加、16日は多賀城・山王で今田院長・看護師・リハの参加で13名参加。七ヶ浜では、検査の佐藤龍技師長が風持参で参加、学校帰りの子供たちに大好評で早速風揚げに走り回っていました。相談会終了後、佐藤龍技師長所属の仙台風の会が春休み中の3月27日に七ヶ浜仮設集会所3か所で風作りを指導して、その後スポーツ広場で一斉に風揚げをする「七ヶ浜風揚げ教室」の開催が決定しました。

